

会山行担当に感謝！ 黄昏組一同

頸城 空沢山 Aパーティー

4月9日（土）

この日の目的地は、何度も行っている焼山を望める平坦な場所。4パーティーが合流できる場所としては最適なところだろう。「のんびりパーティー」と自ら言っている他の皆さんからは「黄昏パーティー」の名前を拝命した。何も反論できない。

まずは能生の道の駅でたっぷり海産物の購入だ。カニ・甘エビ・カスベ・ヒラメの刺身等々。スキー場へ計画書を提出後、目的の集合場所へ。最初は横長の雪のテーブルだったが、合流するパーティーも増えたので、トマの「T」字型で、お互いの顔が見える形へ変化していった。宴会は夕暮れまで続き、夕日に向かって踊る人達も出現した。



夕日に向かって踊る

会員の皆さんの爆買い風景を見ることとなった。



A・F 合同で空沢山山頂

【日程】

2016年4月9日（土）
～4月10日（日）

【メンバー】

鈴木（L）、古野、植島、
尾木原、橋本、宮下（OB）

【地形図】 湯川内

【記】 鈴木

4月10日（日）

朝は思ったより気温は下がらず、シール登行で快適に空沢山へ向かう。途中Bパーティーの天場を通過し、DやFパーティーとも交差しながら空沢山山頂へ。Fと合同で記念写真を撮った後、単に稜線に戻るだけではつまらないので、東側斜面の美味しい部分を味わった。

下山後は改装された柵口温泉へ。その後、農家レストラン・蕎麦屋へと立ち寄ったが、いずれも売り切れとなっていたので、集合場所の能生道の駅へと向かった。海産物を見ると、財布のひもは緩くなり、

頸城 空沢山周辺山スキー

会山行は親睦目的だと考えているからなのか。いや、それだけではあるまい。普段バリバリ山に登っている人たちがこぞって「のんびりパーティ」にエントリーしている。そうだ、この山域は「食」をそそられる山域だった。みんな「山」より「食」なのだ。そんな潮流の中、私たちはハード系スキーパーティとして、ちょっとは美味しいものを食べるけれど、ちょっとは頑張る決意を固めた。

【日程】

2016年4月9日(土)
~4月10日(日)

【メンバー】

森山(L)、坂村、佐藤、棚橋

【地形図】

湯川内、楨

【記】坂村

4月9日(土) : 晴

能生の道の駅はいつ来ても魅力的だ。計画段階では早出をしてシャルマン火打スキー場のリフトを利用せず頑張るという話もあったが、ここに来たからにはやはり美味しい海産物もいただきたい。さすがにカニには手を出さなかったが、少しの海産物を仕入れて出発した。

スキー場の駐車場で支度を済ませ、スキー場に計画書を提出した。その際、ダムに繋がる林道は何ヶ所か崩れているので注意するようにとスタッフの方から忠告をいただいた。

グレンデトップから北側に20mほど滑って今回の出発点に降り立つ。シールを付け、放山に続く尾根を左に見ながら歩き、50分ほどかかって放山山頂に到着した。ここからはこれから行く空沢山はもちろん、360度景色がよく見える。少し休んで本日の幕場に向けて出発することにした。以前ここに来たときは稜線に大きな雪庇がせり出していて、その下を歩く場面があったが、今回はそれがない。やはり例年に比べて雪がだいぶ少ないようだ。代わりに藪がちらほらあって行く手を阻む。本日の幕場、空沢山手前標高1150m鞍部付近には約1時間後に到着した。荷物をデポし、海産物とビールを雪の中に埋めたら再出発だ。

それにしても暑い。雪を拾い食いしつつ空沢山のぼんやりとした山頂に到着した頃には暑さでバテていたが、山頂に吹く心地よい風と、これから滑る楽しみに背中を押され、空沢山の先標高1500mまで頑張って歩く。ここからようやくお楽しみ滑りだ。



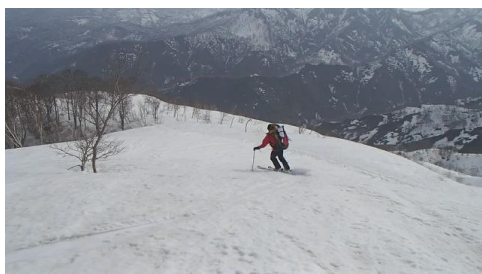
放山から空沢山に向かう稜線

進路を北西に取り、丸倉谷左岸尾根に滑り込む。雪がほどよく緩んでいるうえに障害物がなかったのでとても滑りやすい。あっという間に本日目標としていた標高905m付近まで滑り降りた。沢を渡って隣の尾根に乗り換えたところで少し休み、400m登り返す。西に向かっていたため、容赦なく西日が攻撃してきて体力を奪う。幕場に到着する頃には再びバテていたが、埋めていたビールと海産物を見たらすっかり元気になった。

4月10日（日）：晴

朝食を済ませ、そろそろテントから出ますか…という頃にEパーティがやってきた。「早いね～」
「昨日は何時から飲み始めたの？」なんて会話は会山行ならではの。そうこうするうちに続々と他のパーティもやってきた。みんなの楽しそうな顔を見送って、遅れて私たちも出発した。

今日は空沢山からクロ沢の右岸をダムに向けて滑り、クロ沢を渡って放山に登り返す予定だ。空沢山手前の1330m付近からの滑降だったので空沢山まで登る必要はなかったが、手ぶらで滑ることのできる美味しいチャンスだったので、荷物を置いて空身で空沢山まで登って滑った。戻って荷物を

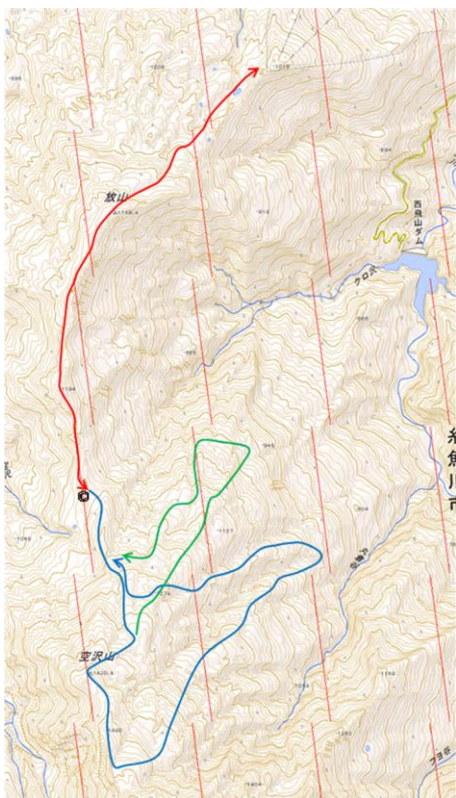


クロ沢右岸尾根に向かって滑る

を背負い直し、早い時間からの滑降に心躍らせながら標高点1274mを目指して滑り込む。小さな尾根と小さな沢が入り組んでいたため時折止まって方角を確認しながら945mまで楽しく滑った。

「さて、どうしよう。」 休憩を取りつつダム方向を見ながら考える。何ヶ所か林道が崩れているという話は聞いていたが、結構大規模に土砂に覆われている箇所がある。放山に登る尾根に雪があるかどうかも怪しい。さすがにこれは行くとハマるかもしれないという話になり、ここから登り返すことにした。隣の尾根に移り、できるだけ省エネで登り返せるルートを探しながら登り、放山に続く稜線にうまく乗ることができた。あとはスキー場まで稜線通しだ。これだけ雪の降らなかつた今年でも十分楽しませてくれた頸城の山々に

感謝しながら空沢山を背に歩いた。



【行程】

4/9

駐車場(9:30)～シャルマン火打スキー場(9:47)
～放山(10:35/50)～1150m付近BC(11:37/12:16)
～空沢山(12:57/13:15)～1500m台地(13:36/45)
～丸倉谷左岸905m登り返し(14:24)
～稜線1150m付近BC(16:05)

4/10

BC(6:50)～空沢山(7:39/48)
～クロ沢右岸945m登り返し(8:25/55)
～稜線1200m付近(9:55)～放山(11:00/11)
～シャルマン火打スキー場(11:35/40)
～駐車場(11:50)

青…4/9 緑…4/10

頸城 空沢山～火打山

会山行でハード系歩き希望が集まったCパーティ。リーダーになった萩原は行程の長さから、直前になってめんどくさくなってきたがはたして…

4月9日(土) : 晴

Cパーティの朝は早い。行程が長いので他パーティの皆が起きる頃には準備を終え、一足先に移動する。笹倉温泉に着いて歩き始める。今日はとても暑い。車からの風景は一面真っ白とはいかず、少し不安になる。今回の核心は距離、そして火打山川の渡渉である。今年のここの記録を見ると、ここの渡渉には川底に降りるまでの雪壁、激しい流れが立ちはだかると思われた。これを突破するためには全裸で渡渉し雪壁をキックステップで上がる、という戦略で臨んだ。イメトレもばっちりだ。

雪が少ない林道を汗びっしょりでテクテク歩き、ついに渡渉点に来た。が、なんとということだろう…川底には容易に降り立つことができ、その深さはあって踝ぐらいまでだ。普通に飛び石をつたって渡れてしまった。気合も拍子抜けだ。しかしこれはきっと神様の粋な計らいだろう。全裸で渡渉をするという、私たちの覚悟が神を動かしたのだ。



簡単じゃないか…

渡渉を終えてすぐの空沢尾根の末端から取りつく。思ったよりも藪はうるさくなく、こまめにトップを変えながらラッセルしていく。雪はある所でもふくらはぎぐらいまでで、ペースは快調だ。ぐんぐん標高をあげていき、空沢山に到着。顕著なピークであるわけでもないし道標もない。一休みしてまた歩き始める。ここからは少しなだらかになる。遠くからゴゴゴという飛行機の音のよう



風が気持ちのいい宴会

【日程】

2016年4月9日(土)
～4月10日(日)

【メンバー】

萩原(L)、野口、佐藤(里)、
吉澤、松本

【地形図】湯川内

【記】萩原

なものずっと聞こえているなあ、と思っていたら焼山の活動の音だった。絶え間なく噴煙を出す焼山は大迫力である。難しいところはなく、穏やかな景色、大量の汗とともに順調に進んでいき、時間はまだ早い1800mあたりで幕とした。明るいうちから春の雪山の最高の宴会を楽しんだ。やはりこの時期は気持ちいい。そしてあまり寝てなかったので早く寝た。

4月10日（日）：晴

寝るのが早かったので朝は早い睡眠は充分だ。明るくなる前に行動開始する。テント等はデポしているので荷は軽い。いきなり急登だが頑張って越える。1864mの小ピークを越えると少しゆるやかになる。事前情報から、このピークのあたりは雪が少なかったら岩が出ているかもしれないと思っていたので、念のためロープを持ってきていた。しかし今回雪は少なかったが岩が露出しているところはなく、ロープは使わずにすんだ。ここら辺の記録は少ないが、この雪のなさで大丈夫なら雪山だと思って来るときは必要ないだろうと思った。その後も雪が途切れて藪を歩いたのが1か所くらいで、ほぼ全部繋がっていたので快適に歩けた。

2000m?あたりに来ると開けてなだらかな斜面となる。ここをスキーしたら気持ちいいだろうなあと思うも、私たちは歩きなのでひたすら進む。しばらくすると稜線に着いた。ここまでくると流石に、いやかなり風が冷たい。登り続けていないと寒くて仕方がない。雪面もカリカリだ。ペースも上げて歩いていき、早い時間に火打山山頂に着いた。いそいそと記念写真を撮り、ゆっくりしないで下山にはいった。

ここまでかなり順調だったので、昼頃には下山できそう。早く降りて蟹が食べたのか、皆のペースが早くなる。下りも楽なので軽快にトバす。距離が結構あるように思われた山行だったが、辛くもなく、皆快調だったなあ。



カリカリの斜面を上がる

そしてまた火打山川の渡渉点に戻ってきた。ここを越えたら緩やかに下って林道を歩くだけ。行きと同じく飛び石をつたって渡る。そして神への感謝として、全裸で水流を全身に浴びながら渡渉しなおした。水はそこまで冷たくなかったが、裸足でキックステップは身に沁みた。

【行程】

4/9 笹倉温泉 (7:00) ~ 火打山川 (9:00) ~ 空沢山 (11:00) ~ 標高 1800m 付近 BC (13:00)

4/10 BC (4:30) ~ 火打山山頂 (7:10) ~ 笹倉温泉 (12:20)



皆で仲良く歩きましょう

滑れたら楽なのになあ

